群教セ	G10 － 01
	平24.246集

郷土を愛する心をはぐくむ道徳教育の工夫

― 自作資料を活用した「人・もの」とかかわる総合単元的な道徳学習を通して ―

長期研修員　　神道　朋子

《研究の概要》

本研究は、地域の「人・もの」とかかわる総合単元的な道徳学習を構想し、自作資料を活用した道徳の時間の指導を行うことにより、郷土を愛する心をはぐくむことを目指したものである。道徳の時間と社会科や総合的な学習の時間を関連付け、地域の人の話や保護者の手紙、体験学習などを通して、地域の「人・もの」とのかかわりを深めると共に、地域素材を取り上げた自作の読み物資料や映像資料を活用して道徳の時間の授業づくりを行った。

キーワード　【道徳－小　郷土愛　総合単元　自作資料　人・もの】

Ⅰ　主題設定の理由

学習指導要領改訂に伴い、道徳教育の目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛し」が新たに加えられた。また、指導計画の作成と内容の取扱いには「授業の実施や地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりする」ことや「先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して（中略）創意工夫ある指導を行うこと」が示された。それらを受けて、平成24年度群馬県学校教育の指針では、「家庭や地域社会との連携を深めながら道徳教育を推進すること」や「魅力的な教材を活用した授業づくり」が求められている。

協力校の児童の実態を見ると、地域の自然や文化財に対する関心及び地域の行事への参加意欲が十分にあるとは言えない。その主な原因としては、地域の人や自然、文化財などとのかかわりが少ないために地域のよさを十分認識していないことが挙げられる。また、身近な地域素材を取り上げた教材の活用、保護者や地域の人との連携、郷土愛にかかわる目標や内容をもつ各教科等との関連を図った指導などが十分に行われていないことも考えられる。

郷土を愛する心は、地域に古くから伝えられてきたもののすばらしさや先人の努力を学ぶことで芽生える。そして、そこに暮らす人々と触れ合い、地域の自然・伝統・文化財・行事などにかかわっていく中ではぐくまれると考える。そのため、郷土を愛する心をはぐくむための道徳教育を推進する上で重要なのは、地域の人・自然・伝統・文化財などとのかかわりを通して郷土への思いや自己の生き方についての考えを深められるようにすることである。また、地域素材を取り上げた教材の開発と活用を行うこと、家庭・地域との連携や各教科等との関連を図った指導を行うことなども大切にしたい。

そこで、道徳の時間と社会科や総合的な学習の時間を関連付けた地域の「人・もの」とかかわる総合単元的な道徳学習を構想し、地域の人々・自然・伝統を取り上げた自作資料を活用した道徳の時間の指導を行えば、郷土を愛する心をはぐくむことができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

小学校の道徳において、郷土を愛する心をはぐくむために、地域の「人・もの」とかかわる総合単元的な道徳学習を構想し、自作資料を活用した道徳の時間の指導を行うことの有効性を明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

1　道徳の時間において、地域の人々・自然・伝統を取り上げた自作の読み物資料や映像資料の活用

及び書く活動の工夫を図ることにより、郷土を大切にしようとする心情や郷土のためにできることをしようとする実践意欲をはぐくむことができるであろう。

２　道徳の時間と社会科や総合的な学習の時間を関連付けた総合単元的な道徳学習を構想し、道徳の時間を中心に地域の「人・もの」とかかわる授業づくりを行うことにより、郷土の人々、自然、伝統などを大切にする道徳的実践を行うことができるであろう。

Ⅳ　研究の内容

１　郷土を愛する心について

郷土を愛する心とは「自分が生まれ育った土地の人々や自然、伝統などに親しみをもち、郷土のためにできることを考え、実践していこうとする心」ととらえた。また、郷土を愛する心をもった児童とは「郷土の美しさや楽しさ、すばらしさを感じ取り、郷土と自分とのかかわりを知り、郷土を大切にしようとする心情」や「郷土のためにできることをしようとする実践意欲」をもった児童のことであり、その心情や実践意欲を基盤として「郷土の人々、自然、伝統などを大切にする道徳的実践」ができる児童のことである。

２　「人・もの」とかかわる総合単元的な道徳学習について

総合単元的な道徳学習とは、道徳の時間を核とした全教育活動における道徳教育を具体的に示したものである。その目的は、道徳の時間と各教科や総合的な学習の時間などの学習で、児童の道徳性を計画的・発展的に育てていくことである。したがって、総合単元的な道徳学習は、道徳の時間と各教科や総合的な学習の時間などの学習が児童の意識の流れに沿って一連のものとしてつながっている。

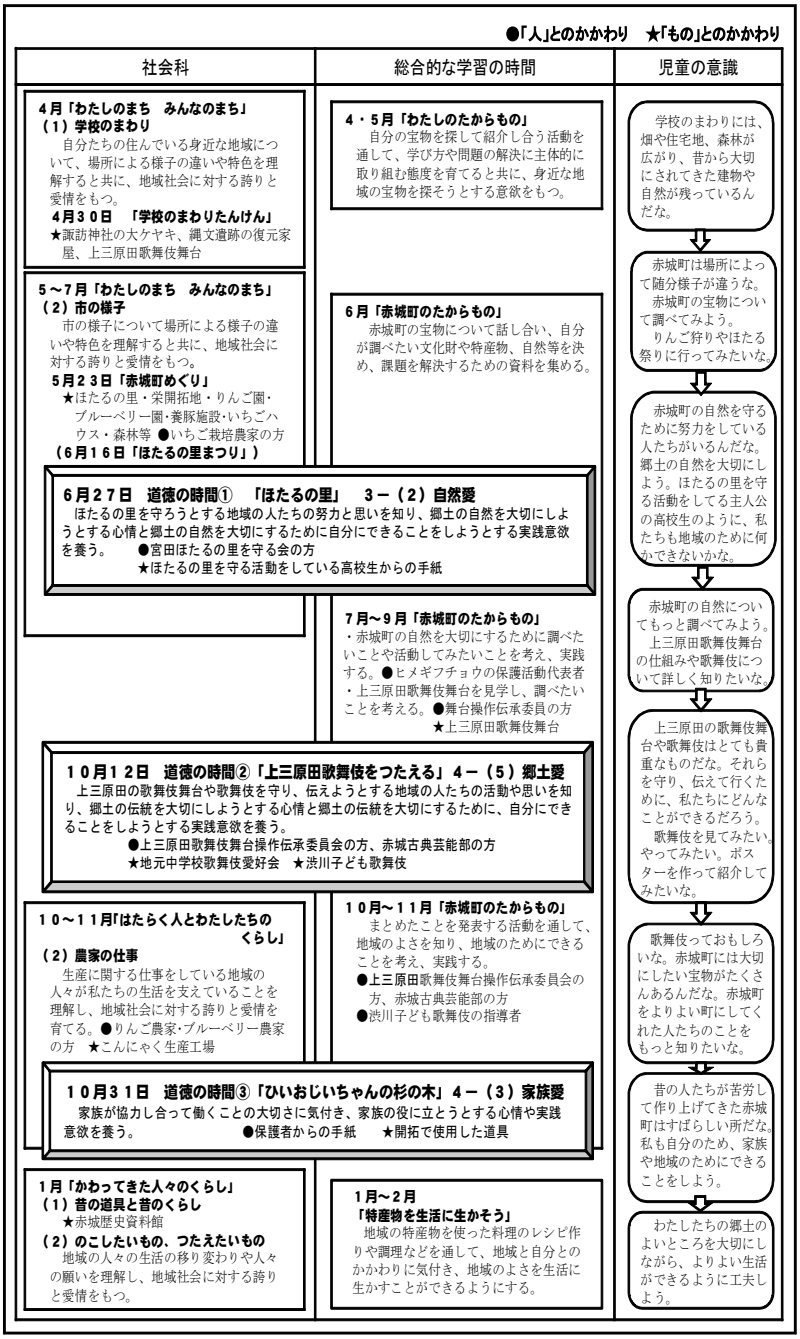

図１　総合単元的な道徳学習の構想（３学年「郷土愛」）

本研究が目指す「郷土を愛する心」の育成には、社会科と総合的な学習の時間の学習とが深くかかわっているため、図１に示すような総合単元的な道徳学習を構想した。具体的には、道徳の時間の前に、社会科や総合的な学習の時間を位置付け、自分たちが暮らす町や市の様子について知る学習を通して、道徳の時間で取り上げる郷土愛にかかわる意識をもたせる。そして、道徳の時間に資料を読んで話し合う中で、その意識を基にして「郷土の自然や伝統を守るために努力している人たちがいるん

だな」「私たちのすばらしい町や市を大切にしたいな」などの心情や「郷土の自然や伝統を守るために自分にできることをしよう」という実践意欲をはぐくむことができると考える。また、その心情や実践意欲を次に設定されている総合的な学習の時間における実践へとつないでいく。つまり、道徳の時間において郷土を大切にしようとする心情や郷土のためにできることをしようとする実践意欲をはぐくみ、総合単元的な道徳学習を通して、郷土の人々、自然、伝統などを大切にする道徳的実践を行えるようにしていく。

その際、総合単元的な道徳学習では、家庭や地域の「人」、自然・伝統・文化財・行事などの「もの」とのかかわりを広げたり、深めたりできるようにする。まず、「人」とのかかわりでは、道徳の時間において、地域の人の話を取り入れ、「ほたるの里を守る会」や「歌舞伎舞台操作伝承委員会」などの方々に体験や願いなどを伝えていただく。また、読み物資料や映像資料の開発、手紙の作成などに保護者や地域の人の協力を得たり、道徳の時間の授業を公開したりする。さらに、社会科や総合的な学習の時間においても、地域の人とかかわりながら見学や体験学習などができるようにする。次に、「もの」とのかかわりでは、道徳の時間において、ほたるを守る活動や歌舞伎の伝承、開拓などにまつわる道具を提示する。また、社会科や総合的な学習の時間においては、自然や文化財の見学、郷土にまつわる書物やかるたの活用などを行う。道徳の時間では、吹き出し形式や手紙形式のワークシートを活用し、相手の立場で書くことや相手意識をもって書くことにより、人やものとのかかわりを深めていく。

３　道徳の時間における指導の工夫

（1）　自作資料の活用について

本研究における自作資料とは、道徳の時間に活用する「教師が作成した、地域素材を取り上げた読み物資料と映像資料」のことである（図２）。地域素材とは、地域の人々・自然・伝統・文化財・行事などのことであり、取り上げる地域素材は、「ほたるの里」「ほたるの里を守る会」「歌舞伎舞台」「歌舞伎舞台操作伝承委員会」「地域で活動している小・中・高校の児童生徒」「村の開拓者」などである。児童にとって、より身近な地域素材を取り上げた自作資料を活用することにより、児童は地域の人々、自然、伝統などのよさを自分とのかかわりでとらえると共に、地域の人々の思いに共感し、自分の生き方についての考えを深めることができると考える。

（2）　書く活動の工夫について

吹き出し形式や手紙形式のワークシートを活用し、相手の立場で書くことや相手意識をもって書くことにより、人やものとのかかわりを深めていく（図２）。また、中心場面や展開後段で主人公の心情について考える発問や自分の生活を振り返る発問に対して、児童が自らの心情を深めたり、整理したりすることができるように書く活動を行う。

ワークシートを吹き出し形式にすることにより、書くことに苦手意識をもつ児童も自分の思いを表現しやすくなると考える。また、自作資料の中の登場人物や保護者に手紙を書く活動を設定することにより、相手意識や目的意識をもって書く活動が行えるようにし、道徳的価値を自分の生き方に結び付けて考えることができるようにする。さらに、書かれたものを通して、心情の変化を振り返らせたり、学習の振り返りや評価につなげたりする。

図２　研究構想図

Ⅴ　研究の計画と方法

1　実践計画

対　　象	研究協力校　小学校第３学年　31名
期　　間	平成24年６月～10月（道徳の時間　３時間）
主 題 名 単 元 名	（道徳の時間）３－(2) 自然愛・４－(5) 郷土愛・４－(3) 家族愛 （社会）「わたしのまち　みんなのまち」「はたらく人とわたしたちのくらし」など （総合的な学習の時間）「赤城町のたからもの」「特産物を生活に生かそう」など

2　抽出児童

A	地域の行事には参加しているが「赤城町はよく分からないから」という理由で「（好きか嫌いか）どちらとも言えない」と事前調査では答えている。また、上三原田歌舞伎やその他の行事への参加意欲も十分ではない。道徳の時間において資料の提示を工夫し、「人・もの」とかかわる楽しさを味わわせることにより、郷土のよさに気付き、郷土を大切にしようとする心情をはぐくめるようにしたい。
B	家族や地域の人から赤城町のことについて聞いた経験はないが、赤城町への関心は高く、ほたる祭りや上三原田歌舞伎を見に行った経験はある。読み物資料やワークシートの工夫、「人・もの」とのかかわりを通して、郷土を大切にしようとする心情を高め、郷土のためにできることをしようとする実践意欲をはぐくめるようにしたい。

3　検証計画

検証項目	検　証　の　観　点	検証の方法
見通し１	道徳の時間において、地域の人々・自然・伝統を取り上げた自作の読み物資料や映像資料の活用及び書く活動の工夫を図ることは、郷土を大切にしようとする心情や郷土のためにできることをしようとする実践意欲をはぐくむのに有効であったか。	**《道徳の時間》** ・活動状況の観察 ・ワークシートの記述・発言 ・記録用ビデオ ・事後アンケート **《社会科･総合的な学習の時間》** ・道徳性にかかわる活動状況の観察 ・感想文の記述・発言
見通し２	道徳の時間と社会科や総合的な学習の時間を関連付けた総合単元的な道徳学習を構想し、道徳の時間を中心に地域の「人・もの」とかかわる授業づくりを行うことは、郷土の人々、自然、伝統などを大切にする道徳的実践を行うのに有効であったか。	

4　指導計画

	○道徳に関連した活動内容 □ 道徳の時間のねらい	研究上の手だて ●「人」とのかかわり　★「もの」とのかかわり
実践１事前	**社会科「わたしたちのまち　みんなのまち」** ○赤城町の自然・文化遺産・特産物に関心をもつ。 **総合的な学習の時間「赤城町のたからもの」** ○赤城町の宝物について話し合う。	●赤城町の自然・文化・特産物に関心がもてるように、赤城町めぐりにおいて、赤城公民館の方やいちご栽培農家の方へのインタビュー活動を行う。 ★赤城の自然や文化遺産の様子を理解することができるように「赤城町めぐり」を行う。 ★赤城町の宝物について考えられるよう「渋川かるた」に取り上げられている赤城町の自然や文化遺産を確認する。
実践１	**道徳の時間** **「ほたるの里」３－(2)　自然愛** □ ほたるの里を守ろうとする地域の人たちの努力と思いを知り、郷土の自然を大切にしようとする心情と郷土の自然を大切にするために自分にできることをしようとする実践意欲を養う。	●自然を守る活動への理解を深めるために、宮田ほたるの里を守る会の方から活動の様子や願いなどについて話を聞く時間を設ける。 ★●赤城町の自然とのかかわりや自然を守る人とのかかわりを実感しながら、自然を大切にすることへの実践意欲がもてるように、主人公の高校生から届いた手紙を読み聞かせる。 **自作資料の活用** ・郷土の自然を大切にするための実践意欲をもつことができるように宮田のほたるの里を題材とした自作の読み物資料を活用する。 ・地域の人々の思いに共感し、自分の生き方についての考えを深めることができるように、赤城の自然や守る会の活動の様子を写した写真及びほたるの動画などの映像資料を提示する。 **書く活動の工夫** ・相手の立場で書くことにより、人やほたるとのかかわりを深めることができるよう、吹き出し形式のワークシートを活用する。 ・自然を大切にすることを自分の生き方に結び付けて考えられるよう主人公に手紙を書く活動を設定する。

実践1事後・実践2事前	**総合的な学習の時間「赤城町のたからもの」** ○赤城町の自然を大切にするために調べたいことや活動したいことを実践する。 ○赤城町のたからものについて調べる。 ○上三原田歌舞伎舞台を見学する。	●上三原田歌舞伎舞台などの文化財や赤城の自然についての知識及び関心を高めるために、伝承委員の方やヒメギフチョウの保護活動をされている方の話を聞く時間を設ける。 ★赤城町の文化財について関心をもつことができるよう、上三原田歌舞伎舞台の見学を行う。
実践2	**道徳の時間「上三原田歌舞伎をつたえる」** **4－(5)　郷土愛** 上三原田歌舞伎舞台や歌舞伎を守り、伝えようとする地域の人たちの活動や思いを知り、郷土の伝統を大切にしようとする心情と郷土の伝統を大切にするために自分にできることをしようとする実践意欲を養う。	●郷土の伝統を守る活動への理解を深めるために、歌舞伎にかかわる地域の舞台操作伝承委員会、赤城古典芸能部の方々から活動の様子についての話を聞く時間を設ける。また、資料の開発に保護者や地域の人の協力を得る。 ★郷土の伝統を大切にしようとする心情を育てるために地元中学校歌舞伎愛好会の活動、上三原田歌舞伎の公演、渋川子ども歌舞伎の活動などを写真やビデオで紹介する。 **自作資料の活用** ・郷土の伝統を大切にする実践意欲をもつことができるように、歌舞伎にかかわる12名の地域の大人と子どもの活動を題材とした自作の読み物資料を活用する。 ・地域の人々の思いに共感し、自分の生き方についての考えを深めることができるように、歌舞伎舞台の操作や歌舞伎の公演の様子を写したビデオや写真などの映像資料を提示する。 **書く活動の工夫** ・郷土の伝統を大切にすることを自分の生き方に結び付けて考えられるように、読み物資料に登場する12名の地域の人の中から相手を選んで手紙を書く活動を設定する。
実践2事後・実践3事前	**社会科「はたらく人とわたしたちのくらし」** ○地域の生産者が私たちの生活を支えていることを理解する。 **総合的な学習の時間「赤城町のたからもの」** ○上三原田歌舞伎を守り伝えるためにできることを考え、実践する。	●赤城町の特産物や開拓の歴史について知識や関心がもてるように、りんご農家やブルーベリー農家の方へのインタビュー活動を行う。 ●歌舞伎に対する理解と関心を高めるために、赤城古典芸能部の指導者の方に歌舞伎を指導していただく。 ★上三原田歌舞伎を紹介するために、多様な資料を参考にしながら、作ってみたいポスター、新聞などを制作する。
実践3	**道徳の時間「ひいおじいちゃんの杉の木」** **4－(3)　家族愛** 家族が協力し合って働くことの大切さに気付き、家族の役に立とうとする心情や実践意欲を養う。	●家族の一員として役に立とうとする実践意欲を育てるために、家族からの手紙を読む時間を設ける。 ★家族のために努力した曾祖父の思いを共感的に受け止められるよう開拓当時のくらしの様子や道具などを写真や実物で提示する。 **自作資料の活用** ・家族の役に立とうとする心情や実践意欲を養うために、郷土の開拓者を題材とした自作の資料を活用する。 ・臨場感を味わいながら登場人物の心情を感じ取れるように、写真やビデオなどの映像資料を提示する。 **書く活動の工夫** ・書くことに苦手意識をもつ児童も登場人物の思いを表現できるよう吹き出し形式のワークシートを活用する。
実践3事後	**社会科「かわってきた人々のくらし」** ○地域の人々の生活の移り変わりや人々の願いを理解し、地域社会に対する誇りと愛情をもつ。 **総合的な学習の時間「特産物を生活に生かそう」** ○地域の特産物を使った料理のレシピ作りや調理を通して、地域のよさを生活に生かせるようにする。	★地域の生活や郷土に伝わる伝統、文化に親しみ、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができるように、赤城歴史資料館の見学や昔の道具の提示、赤城町に伝わる伝統芸能や文化財などの調べ学習などを行う。 ★郷土のよさを実感し、生活に生かせるように、特産物やそれを使った料理などの実物や写真を提示する。

Ⅵ　研究の結果と考察

1　道徳の時間において、自作の読み物資料や映像資料の活用及び書く活動の工夫を図ることの有効性について

(1)　結果

「自然愛」を主題とした１回目の実践では、協力校がある赤城町の「宮田ほたるの里」を題材とした読み物資料「ほたるの里」を作成し、活用した。本資料は、小学１年生の時に見た蛍の乱舞をきっかけに、ほたるの里を守る会の会員となった高校３年生の主人公が、宮田の自然環境の変化、

ほたるの里を守る会の人たちの活動の様子や思いなどに触れ、ほたるの里を守りたいと願う内容である。

授業では、導入や展開において、ほたるの里の風景や活動の様子などを写した28枚の写真と、蛍の乱舞の様子を収録した動画を提示した。蛍を実際に見たことのない児童が半数近くいたため、動画を見つめて「すごい」とつぶやく様子が見られた。一方、書く活動の工夫としては、主人公や蛍の思いをそれぞれの言葉で記述する吹き出し形式のワークシートを活用した（図３）。 その結果、表１のような記述が見られ、発問１では、全員の児童が主人公の言葉を通して蛍の美しさやすばらしさに対する感動を表現することができた。発問２では、蛍の立場から自然を大切にする活動の有り難さを、発問３では、主人公の立場から自然を大切にする活動への意欲や願いを感じ取ることができた。抽出児童Ｂも図３のように、それぞれの心情を推し量り、自分なりの言葉で表現している。終末では、主人公からの手紙を読み聞かせ、返事を書く活動を行った。主人公からの手紙は、ほたるの里を守る会の高校生と相談しながら作成したものである。蛍への思い、将来の夢、３年生へのメッセージなどを載せることで、児童が自分とのかかわりに気付き、自然を大切にすることへの意欲をもてるようにした。その結果、全員の児童が、蛍を愛し、守る活動を行う主人公に共感する思いを主人公への手紙に記すことができた(表２)。その他、手紙には、蛍や自然を大切にするために自分にできることをしようとする思いを71％の児童が記述すると共に、蛍や自然のすばらしさ、大切さを自分とのかかわりでとらえた思いを52％の児童が記述していた。また、約90％の児童は、そのどちらか一方あるいは両者の思いを表現することができた。抽出児童Ａの手紙には、「ほたるのいのちをすくう人になってみたい」「ほたるはかせになってみたい」という記述が見られ、自然を大切にしようとする実践意欲が表れていた。

次に、「郷土愛」を主題とした２回目の実践では、校区にある国指定重要有形民俗文化財「上三原田歌舞伎舞台」を題材にした読み物資料「上三原田歌舞伎を守り伝える地域のおとなたち・子どもたち」を作成し、活用した(図４)。資料の片面には、舞台操作伝承委員の方や舞台を建てた永井長治郎の親戚の方、修復工事の担当者、歌舞伎の指導者など、歌舞伎にかかわる６名の地域の人々の活動内容や思いを写真と共に掲載した。裏面には、地元中学校の歌舞伎愛好会の生徒や渋川子ども歌舞伎に所属している小中学生たち６名の歌舞伎に対する思いを記した。

授業では、導入や展開の前段において、読み物資料

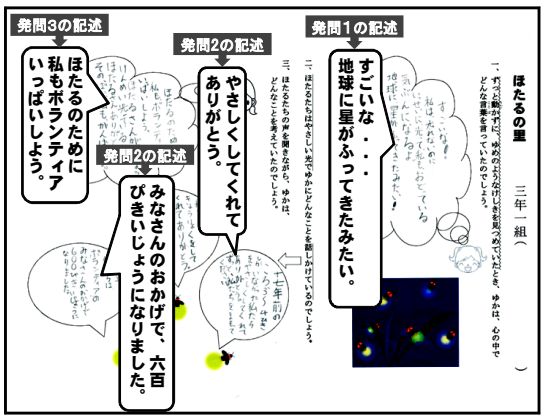

図３　抽出児童Ｂのワークシート

表１　ワークシートの記述と記述した児童の割合

【発問１　ほたるの乱舞を見た主人公の心情について】

ほたるの美しさやすばらしさに対する感動	１００％
ほたるの不思議さに対する感動や疑問	１６％
ほたるに対するその他の思いや願い	１０％

【発問２　ほたるの心情について】

ほたるを守る活動に対する感謝の気持ち	８４％
人間への親しみの気持ち	７４％
人間への恩返しの気持ち	２０％

【発問３　ほたるの声を聞いた主人公の心情について】

ほたるや自然を守りたい気持ち	８４％
ほたるへの感謝の気持ち	５２％
ほたるや自然に対するその他の思いや願い	６１％

表２　手紙の記述と記述した児童の割合

ほたるを愛し、守る活動を行う主人公に共感する思い ・ほたるがいっぱいとんだのは、地域のボランティアの人のおかげだと思います ・これからもほたるや自然を守るためにがんばってください　など	１００％
ほたるや自然を大切にするために自分にできることをしようとする思い ・ほたるのことをもっと調べたり、カワニナにえさをあげたりしたいです ・ほたるが住めるところをつくって、いろいろな人に見せてよろこんでもらいたいです　など	７１％
ほたるや自然のすばらしさ、大切さを自分とのかかわりでとらえた思い ・ほたるをふやしたいという気持ちはぼくにもわかります。ぼくも自然が大好きです ・ほたるまつりに行ってみました。ほたるの光はまるでかいちゅう電とうのようでした　など	５２％

図４　読み物資料の一部

と並行して歌舞伎舞台や歌舞伎にかかわる地域の人たちなどの写真19枚と２種類の映像資料を活用した。映像資料は、歌舞伎舞台のしくみや復活した経緯、伝承活動の様子などが収められた既製のビデオと、修復作業の様子や子ども歌舞伎の練習風景を取材した自作のビデオである。児童は、歌舞伎舞台の奈落や歌舞伎に取り組む小中学生などの様子（図５）を食い入るように見ていた。展開の後段では、渋川子ども歌舞伎に所属している中学生からのビデオメッセージを通して、歌舞伎の楽しさや伝承活動の大切さを感じ取れるようにした。さらに、終末では、読み物資料に登場する12名の人たちの中から相手を選んで手紙を書く活動を行った。児童は表３に示した４名を選び、平均して84％の児童が表の記述のように、郷土の伝統を大切にするために自分にできることをしようとする実践意欲を表現することができた。抽出児童Ｂは歌舞伎の指導者に宛てた手紙の中で「私も歌舞伎がやりたくなりました。（中略）演じられたら、たくさんの人に歌舞伎を伝えたいです」と記している。

最後に、「家族愛」を主題とした３回目の実践では、旧赤城村栄の開拓を題材にした読み物資料「ひいおじいちゃんの杉の木」を作成し、活用した。本資料は、家族が協力し合って働いていた開拓時代の話を曾祖父から聞いた主人公が、お手伝いを進んでしなかった自分を見つめ直す話である。

授業では、80年前の郷土の開拓の歴史を身近なものとしてとらえられるように、土地の様子や昔の道具を18枚の写真や実物を使って説明しながら資料を読み進めていった。吹き出し形式のワークシートを活用し、二つの場面の主人公の思いを表現することで心情の変容をとらえられるようにした。ひいおじいちゃんの杉の木を見つめながら自分を省みる主人公の心情を問う発問２では、家族のために働こうとする主人公の気持ちを全員の児童が記述していた。抽出児童Ａのワークシート（図６）にも、曾祖父に対する敬意や家族のために働こうとする主人公の思いが表現されている。終末では、家族から届いた手紙を各自が読んで返事を書く活動を行った。家族からの手紙については、児童が家族の大切な一員であることを自覚し、家族の役に立ちたいという思いをもつことができるような内容となるよう、保護者に例文を示して執筆のお願いをした。児童は、家族からの手紙を嬉しそうに開封し、読み終えた時には穏やかな表情を浮かべていた。家族への手紙には、約80％の児童が図７のように、進んで家族の役に立とうとする心情や実践意欲を表現することができた。残りの約20％の児童は、家族の手紙を読んで感動

図５　映像資料の一部

表３　手紙に記された「実践したいこと」

「歌舞伎の指導者」へ ・歌舞伎を演じられたら、たくさんの人に歌舞伎を伝えたい ・歌舞伎舞台のチラシやポスターをかいて地域の人に広めたい ・こんな素晴らしい歌舞伎を世界中の人にも見ていただきたい　など
「歌舞伎舞台操作伝承委員会の方」へ ・歌舞伎の二重せりにのってみたい ・拍子木を打って合図を出してみたい ・お化粧をして、着物を着て、歌舞伎を演じてみたい　など
「義太夫の方」へ ・三味線がひきたくなりました ・ぼくも三味線を持って舞台に上がりたい ・歴史のある歌舞伎を見て、義太夫の声を聞いてみたい　など
「子ども歌舞伎を演じる小学生」へ ・色々な役をやってお客さんに感動してもらって、そのうれしさを知りたい ・わたしもかっこいい男役をしてみたい ・みんなが練習をして上手になっていることをポスターにまとめてはりたい　など

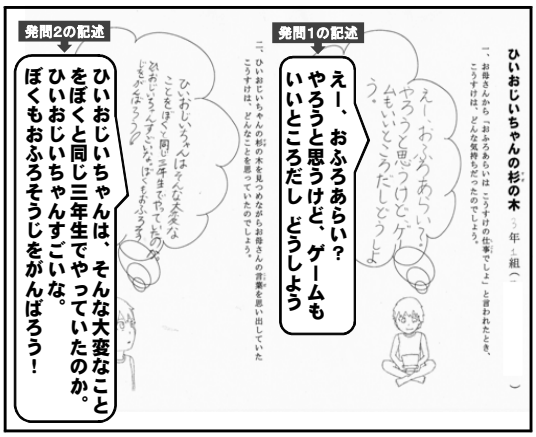

図６　抽出児童Ａのワークシート

家族への手紙に表現された道徳的実践意欲

・お手伝いでお母さんが助かっているならぼくも幸せだよ、こまった時は言ってね

・ごはんやおみそ汁、スパゲッティーなど、今度お母さんがいないとき作りたいです

・畑の仕事や花の水やりなどいろいろしているけど、こんどはもっとお手伝いをするよ

・お母さんがびっくりするくらいお手伝いをいっぱいするよ

・おふろそうじだけではなく、お皿あらいや弟のせわなど、いっぱいがんばるからね　など

図７　手紙の記述内容

した気持ちや感謝の言葉を記述していた。その中の一人である抽出児童Ｂは母親に宛てた手紙の中で「お手紙を読んで、なきそうになりました。(中略)いつもおいしいお料理を作ってくれてありがとう」と感謝の気持ちを表現している。

(2)　考察

道徳の時間において、自作資料の活用や書く活動の工夫を図ったことにより、児童は、郷土を大切にしようとする心情や郷土のためにできることをしようとする実践意欲をはぐくむことができた。

実践の前後に行ったアンケートの結果(図８)を見ると、②と③の実践意欲が共に42%向上している。②の歌舞伎を伝える活動をしたい理由としては「歌舞伎が好きだから」「歌舞伎がしたいから」「歌舞伎舞台の大切さを地域の人や自分の子どもに知ってほしいから」などを挙げる児童が見られるようになり、歌舞伎や歌舞伎舞台に対する愛着や関心が高まっていることが分かる。実践前には「興味がないから」という理由で「歌舞伎を伝える活動をしたくない」と答えていた抽出児童Ａは、実践後、「活動をしたい」と回答し、その理由は「歴史があるから」であった。抽出児童Ｂは実践の前後共に「活動したい」と回答し、理由は「歌舞伎を見てもらいたいから」が「歌舞伎はずっとやってきたものだから」に変容した。これらは、歌舞伎の歴史的な価値や伝承活動の意義を理解した結果であると考える。③の家族の役に立ちたい理由としては、「家族が喜んでくれるから」が増加し、家族の役に立つことが家族の喜びにつながるという意識が高まった。①については、90%の児童が「自然を大切にする活動をしたい」と答え、その理由として、「ほたるやヒメギフチョウを守りたいから」「動物・植物・人間がみんな喜ぶから」のように具体的な生き物の名前を挙げる児童や共存共栄の考え方をする児童が増えた。一方、自然や歌舞伎を守り伝える活動に消極的な約10%の児童が一番多く挙げていた理由は「大変そうだから」であった。ゲストティーチャーの話や読み物資料から、継承の苦労や難しさを感じ取ったためであると考えられる。

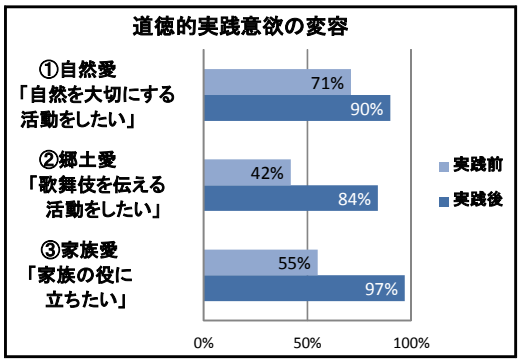

図８　実践前と実践後のアンケート結果

このように、児童が郷土を大切にしようとする心情や郷土のためにできることをしようとする実践意欲をはぐくむことができた要因は、主に二つあると考える。一つ目は、身近な地域素材を取り上げた読み物資料や映像資料を作成し、活用したことにより、児童が地域の人々、自然、伝統などのよさを自分とのかかわりでとらえ、それらを大切にしようとする人たちの苦労や努力、喜びなどに共感し、自分の生き方についての考えを深められたことである。二つ目は、吹き出しや手紙などの形式を取り入れたワークシートの活用により、同年代の主人公の喜びや迷いなどに寄り添って心情を表現することや、伝えたい相手に自分の課題や願いを表現することができたことである。以上のことから、道徳の時間において、地域の人々・自然・伝統を取り上げた自作の読み物資料や映像資料の活用及び書く活動の工夫を図ることは、郷土を大切にしようとする心情や郷土のためにできることをしようとする実践意欲をはぐくむ上で有効であったと言える。

２　総合単元的な道徳学習を構想し、地域の「人・もの」とかかわる授業づくりを行うことの有効性について

(1)　結果

「自然愛」を主題として１回目の実践を行った６月末、総合的な学習の時間(以下「総合」)では、赤城町のたからものについて調べようとする意識が高まりつつあった。また、社会科では、赤城町や渋川市の特色を理解し、地域社会に対する関心をもち始めていた。そこで、道徳の時間の導入では、総合で取り上げた赤城町の自然や社会科の「赤城町めぐり」で実際に見学した自然を「渋川かるた」や写真で振り返る活動をした。また、２週間前に行われた地域の「ほたる祭り」での体験や蛍に関する体験を発表し合い、道徳的価値への方向付けを行った。その過程で児童は、自然、かるた、祭りなど、地域の「もの」とのかかわりを深めることができた。展開では、ゲストティーチャ

ーとして招いた「宮田ほたるの里を守る会」の方に、蛍が減った背景や活動の様子、苦労や願いなどを授業者との問答形式で話してもらい、「人」とのかかわりを深めた。児童は、読み物資料に登場する地域の人の話にじっと耳を傾けていた(図９)。６ページで述べたように、この道徳の時間では、郷土の自然を大切にしようとする心情や実践意欲がはぐくまれた。それにより、事後の総合では「赤城町の自然について調べたい」「ヒメギフチョウについても詳しく知りたい」などの思いが生まれ、赤城の自然についての調べ学習やヒメギフチョウ保存会会長の話を聞く学習へと発展していった(図10)。抽出児童Ａは、「大ケヤキ」について調べる過程で「最初はぜんぜん知らなくて、きょうみがなかった。でも、どうどうと立っている大ケヤキを見てからは大ケヤキのことがもっと知りたくなった。(中略)これからも大ケヤキを守っていきたい」という感想を記述している。

図９　ほたるの里の方の話

図10　郷土の自然について
質問する児童（総合）

児童は10月の初めに総合で歌舞伎舞台を見学した。その１週間後に実施した２回目の道徳の時間では、「舞台の動く仕組みを実際に見たい」という見学後の感想文や写真を導入で提示し、舞台の価値を知る学習につなげていった。展開では、歌舞伎舞台の操作に使われる拍子木の音や遠見絵の大きさを紹介して「もの」とのかかわりを深めた。児童は、教室に響き渡る拍子木の音に驚きの表情を見せていた。「人」とのかかわりでは、歌舞伎に携る12名の人たちの思いを読み物資料で伝えると共に、歌舞伎舞台操作伝承委員の方に歌舞伎の上演を復活させた理由について話してもらった。また、義太夫節に合わせ、番傘を差して登場した歌舞伎の指導者には、歌舞伎の楽しさを伝えてもらった(図11)。ゲストティーチャーの話や持ち物は児童の興味を引き、抽出児童ＡとＢも、提示した下駄について「履いてみたい」と挙手で意思表示をしていた。歌舞伎への関心や実践意欲の高まりを受け、次時の総合では、歌舞伎体験を行った。内容は、義太夫の語りや三味線の鑑賞、「白波五人男」のセリフの練習、番傘と下駄を使って歩き、見得を切る所作(図12)などである。児童は、照れながらも楽しそうに行っていた。活動後の感想文には「歌舞伎を演じている人の楽しさが分かった」「歌舞伎をまたやりたい」「重いものをもって演技をするのは大変だった」「三味線を弾きながら役者さんと話す義太夫は難しそう」などの、歌舞伎の楽しさや難しさを実感した記述が見られた。また、６名の児童は、上三原田歌舞伎を地域の人や他学年の児童に知らせるために新聞やちらしを作りたいという思いを感想文に記した。その思いを基に、総合では、歌舞伎を伝える新聞作りがスタートした。抽出児童Ｂは新聞(図13) に「感動するのでぜひ見に来てください」と呼びかける文や「歌舞伎をもっともっと知りたいです」という思いなどを載せている。

図11　歌舞伎指導者の話

図12　歌舞伎体験（総合）

図13 抽出児童Ｂが作った新聞

「家族愛」を主題とした10月末の道徳の時間は、社会科で家族経営のりんご園を見学した翌日に実施し、導入において家族の協力やお手伝いに関する事前調査の結果を提示することで、価値への方向付けをした。また、開拓者が使った道具を実物や写真で提示したり、「水の入った一升瓶２本」や「つるはし」の重さを事前に体感させたりしたことにより、児童は開拓当時の苦労や努力を感じ取ることができた。終末では、人とのかかわりとして、家族から届いた手紙を渡し、家族が抱く自分への思いや願いを知らせた後に家族への手紙を書く活動を行った。

(2)　考察

道徳の時間と社会科や総合を関連付けた総合単元的な道徳学習を行ったことにより、児童は、道徳の時間にはぐくんだ実践意欲を基にして事後の総合では、赤城の自然を知るための調べ学習や歌舞伎体験、地域の伝統のよさを伝える新聞作りなどを自ら行い、道徳的実践につなげることができた。また、日常生活では、52%の児童が町の文化祭におけるほたるの里の展示や赤城歴史資料館におけるヒメギフチョウ展、歌舞伎の公演会などを主体的に参観したり、39%の児童が家庭での手伝いの種類を増やしたりする様子が見られた。

このように、児童が郷土の人々、自然、伝統などを大切にする道徳的実践を行うことができた要因は、主に三つあると考える。

一つ目は、事前の社会科や総合で道徳的価値にかかわる児童の意識が高まる時期をとらえて道徳の時間を設定し、その意識を道徳の時間の導入につなげられたことである。それにより、「赤城町には貴重な自然がたくさんあるな」「歌舞伎舞台の動く仕組みを見たい」などの事前の意識が、導入では「どのようにほたるを守っているのだろう」「どんな思いで歌舞伎を守り伝えているのだろう」などの課題意識となり、ねらいとする道徳的価値への関心を高めることができたと考える。

二つ目は、地域の人の話、主人公や保護者の手紙、郷土にまつわる道具などの地域の「人・もの」とかかわる授業づくりを行ったことにより、児童が多様な考えや生き方に触れたり、地域のよさを理解したりしながら、郷土への思いやよりよい生き方についての考えを深められたことである。それにより、「これからはもっとお手伝いをするよ」などの課題意識や「ほたるが住めるところをつくりたい」「歌舞伎を演じて、たくさんの人に伝えたい」などの実践意欲をもつことができたと考える。

三つ目は、道徳の時間に児童が抱いた「赤城町の自然について調べたい」「歌舞伎をやってみたい」などの実践意欲を基にした道徳的実践の場がすぐ後の総合で設定できたことにより、意欲を持続させながら道徳的実践を行えたことである。それにより、自然や伝統を守り伝えることの楽しさや難しさ、大切さなどを実感し、「大ケヤキのことをもっと知りたい」「歌舞伎をまたやりたい」などの新たな意欲をはぐくむことができたと考える。

以上のことから、道徳の時間と社会科や総合的な学習の時間を関連付けた総合単元的な道徳学習を構想し、道徳の時間を中心に地域の「人・もの」とかかわる授業づくりを行うことは、郷土の人々、自然、伝統などを大切にする道徳的実践を行う上で有効であったと言える。

Ⅶ　研究のまとめ

1　成果

○　地域の人々・自然・伝統を取り上げた自作資料の活用及び書く活動の工夫を図ることにより、地域のよさを自分とのかかわりでとらえ、地域の人々の思いに共感し、郷土を大切にしようとする心情や郷土のためにできることをしようとする実践意欲をはぐくむことができた。

○　総合単元的な道徳学習を構想し、地域の「人・もの」とかかわる授業づくりを行ったことにより、郷土への思いやよりよい生き方についての考えを深め、郷土の人々・自然・伝統などを大切にする道徳的実践を行うことができた。

2　課題

○　ねらいとする価値についての思いや考えが深まるように、児童の意識の流れを踏まえて地域の人の話を設定することや、その話を生かして発問を構成することが必要である。

○　より主体的な活動の中で郷土にかかわる体験や郷土を大切にする道徳的実践ができるように、各教科等や日常生活との関連を吟味し、道徳の時間の位置付け方を工夫することが必要である。

＜参考文献＞

・小島　宏　編　『各教科・領域等における道徳教育の進め方の実際』　　教育出版（2010）